

芝川町

地形概況

富士川が曲流しながら低地を発達させる。支流の稲子川芝川・稲瀬川流域の山地と丘陵,北部の天子山地からなる。芝川東方の羽鮒から西山への丘陵は古富士泥流堆積物が基盤となる。河谷低地・段丘ともに規模は小さい。白鳥山の大崩壊は宝永地震によるものである。

地質概況

山地は浜石岳層群・富士川層群・小河内層群などの地層からなり、岩石は礫岩・火砕岩・砂岩・泥岩・砂岩と泥岩の互層など変化にとみ、南北方向に配列する。富士山麓には玄武岩質溶岩地・古富士泥流からなる丘陵地、安山岩類なども分布する。

気象概況

年平均気温は市街地付近で推定 13°C程度で標高が増すに従い低くなる。年平均降水量は羽鮒で 2,067mm と県内では少ない方であり、春から夏季(5月から9月)にかけて全降水量の約 50%の雨が降る。日照時間は県平均より少ない。

災害事例 地震

- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
全県下に被害を及ぼした大地震。当地では、西山・上稲子・内房で震度5~6、下柚野で震度5であった。
- 1707年10月28日(宝永4年)宝永地震 M=8.4
内房村では白鳥山が崩れ落ち、富士川より東の村(長貫村)を埋め、村中の男女残らず(30人ほどともいう)死亡した。崩れた土砂のため3日間水が堰止められ、普段船渡しの河原は陸のようになった。3日目に堰が崩れ流れたが、すさまじいものであった。震度は白鳥で6である。

災害事例 台風

- 1966年9月25日(昭和41年)台風26号
全県下、特に中部で被害が大きかった。当地では全壊9戸、半壊34戸であったが、特に稗久保地区では全戸数30戸の約1/3が全半壊(全壊5戸、半壊4戸)した。
- 1952年6月23日(昭和27年)ダイナ台風
日雨量は280mmに達し家屋・田畑・橋梁に被害が出た。当地では負傷者9人、行方不明2人、全壊3戸、半壊7戸、流失3戸、埋没1戸、床上浸水6戸、床下浸水4戸であった。
- 1897年9月9日(明治30年)
芝川・稲子川が増水し、道路の決壊や田畑の埋没流失が多かった。
- 1705年8月5日(宝永2年)
豪雨によって白鳥山の一角が崩れ落ち、境川を堰き止めたため、塩出村の家屋7~8戸が浸水した。その上その堰がきれたため、塩出村の民家を押し流して、36人が溺死した。